

社会教育

2019

2

No.872

<http://www.social-edu.com>

70th



social-edu
社会教育法
70周年

特集

生涯大活躍

健康・長寿時代の学びと交流



特集 生涯大活躍

— 健康・長寿時代の学びと交流 —

今月のトピック

「人生100年時代」への旅立ち

「地域と関わり、「生涯学び続けられる都市」へ」

前新潟市長 篠田昭

……4

論文

「生涯活躍のまち」の実現に向けた

「つながりの場」づくりの推進

滋賀大学社会連携研究センター教授 神部純一 ……6

大衆長寿社会を豊かに生きる

「ゆるやかなつながり」と

「地域コミュニティ」の在り方

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員 澤岡詩野 ……12

生涯活躍の基盤づくりとしての

学び直し経営塾「寺子屋カレッジ」

『三毛作人生』から生まれた進化系経営学のススメリ

株式会社 ビット89代表取締役 吉田健司 ……18

提言

音楽で地域を元気にする

地域音楽コーディネーター

公益財団法人音楽文化創造 理事・事務局長 揚石明男 ……24

事例

地域での

ミニ起業家育成

ときがわカンパニー合同会社代表 関根雅泰 ……28

元気人インタビュー “得る” Cafe サイトコラボ企画

自らを地域で活かし、
楽しく生きる人たち

“得る” Cafe サイト管理人・フリーライター
いとう啓子 ……32

人生
100年、
自分の
足で歩く
寝たきりに
ならない
方法
教えます

かじやますみこ 著

フリーランスライター 阿部佳代子 ……34

読書案内

生涯活躍

ARTICLE

生涯活躍の基盤づくりとしての学び直し 経営塾「寺子屋カレッジ」 「三毛作人生」から生まれた進化系経営学のススめ

株式会社ビット89代表取締役 吉田健司

1. “三毛作人生”の体験から芽生えた従来経営学への問題意識

「経営学」と聞くと、一般には大学の経営学部で学ぶ専門科目や、最近では米国生まれのMBA (=Master of Business Administration: 経営学修士)教育のような学問をイメージされる方が多いのではないだろうか。私自身は、大学・大学院で「マネジメント・サイエンス(経営科学)」を専攻し、また米国ビジネススクール(経営大学院)でMBA教育を受けてきましたので、従来の「経営学」をそのまま肯定して受け入れてきました。しかし「経営」を共通キーワードとする「三毛作人生」を歩んだことで、従来経営学に対して「何かが不足している」という問題

意識を抱くようになりました。というのは、MBA教育などを受けてきている経営陣や経営スタッフを多く擁し、社内外に対してコンプライアンス(法令順守)の重要性を唱えているような大企業であっても、企業不祥事を起こし社会から非難されるニュースが一向に後を絶たないからです。これまでの人生体験を踏まえて辿り着いた結論をお話する前に、その背景となりました私の「三毛作人生」について少し触れさせていただきます。

まず、第一ステージは「会社員」として勤務していた「企業戦士」時代です。大手化学会社で、主に経営企画部門に従事し、中長期戦略・予算編成・設備投資などの経営計画策定業務に携



吉田 健司
(よしだけんじ)
株式会社 ビット89
代表取締役
1975年、早稲田大学
大学院理工学研究科修
士課程修了。同年、旭
化成(株)に入社し。主に本社経営企画ス
タッフとして従事。1983年、米国イリノ
イ大学ビジネススクールに派遣留学し、
MBA取得。1989年(株)ビット89を
設立、同社代表取締役。2010~15年淑
徳大学経営学部教授。2016年4月「寺子
屋カレッジ」開校。
E-mail: k-yoshida@bit89.co.jp
URL: http://www.bit89.co.jp

わっていたときで、大企業の情報収集・分析力や資金力・組織力などを現場レベルで実感することができました。メーカーというモノづくりの視点で、研究開発→生産→販売→物流といった直接部門(ライン)やこれらを支援する人事・財務・総務・システム・法務・知財といった間接部門(スタッフ)から労働組合などを通じて、最先端経営学の実践とともに、教科書にはない「現実世界」にも触れることができ、その後の人生の土台にもなりました。

次の第二ステージでは、体調を崩したことで止む無くそれまでの勤務先を退職し、いわゆる「起業家」として独立・創業した「武者修行」時代です。社外経営企画室と銘打って、調査探索

たとえば「グローバル経営論」という「専門コア科目」を履修する場合、この講座ではグローバル人材の育成・採用やグローバル販売体制、さらにグローバル資金調達戦略などを中心課題として取り上げていますが、就職して海外事業の実務に携わるようになる、進出国現地の言語だけでなく、その国・地域の文化や習慣、さらには宗教などにもある程度、精通していないと、計画通りに事業を軌道に乗せることができなことが分かります。したがって、専門コア科目である「グローバル経営論」を支える上に有効なのは、周辺教養科目群のなかの「文化人類学」や「宗教学」の重要性に気付くことになります。

2. MBA教育を超えた『あんパン経営』と『時事ネタ経営学』

以上、私の『三毛作人生』を踏まえて辿り着いた結論として、従来経営学の問題点・改善点についてご説明しましょう。

些か乱暴な言い方になりますが、これまででの経営学では、企業などの組織体を効率的に運営・管理していくこと

に主眼を置いた知識や技能、すなわちスキル偏重の教育体系となつている傾向が強いと思われれます。これはこれで重要なことですが、行き過ぎると自社の利益を優先するあまり、社会を欺くような非モラル的行動に走つてしまう危険性もあるということです。別の言い方をすれば、論理を中心とした学問体系だけではどうしてもバランスのとれた人材教育が難しいのではと認識されるようになってきています。

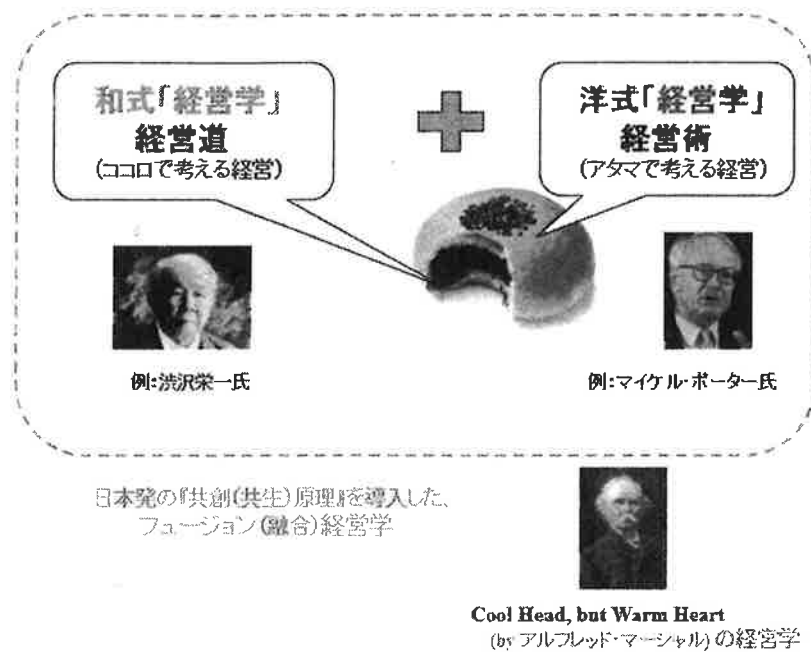
さて『人生100年時代』が叫ばれる今日、このような従来経営学への問題意識を持ちながら、健康・長寿時代に適した新しい基軸の経営学教育の在り方を模索してきました。『寿命150歳』説は些か信じられませんが、永い人生の中、多様な生き方がこれまで以上に考えられるようになっていきます。

しかし、どのような分野であっても、『経営』は共通の重要要素となります。ところが、そのためのリカレント教育（学び直し）として経営学を学びたい一般社会人にとつて、4年間を要する大学経営学部や、主に2年間を要するビジネススクールでの経営学教育では、時間的、経済的にも現実的と言えませ

ん。特に中小企業に勤務している人にとっては適切な教育機関があまり見当たらないのが現状です。しかし日本経済の大部分を支えている原動力は中小企業や個人事業主の方々であり、そのための学び舎として【寺子屋カレッジ】を構想・開講し、現在その立ち上げに尽力しています。この新しい経営塾は『あんパン経営学』講座と『時事ネタ経営学』講座の2コースから構成されていますので、以下その概要についてご紹介します。

(1) 『あんパン経営学』講座とは

明治時代以降、欧米から導入された理論やスキル等によって体系化された洋式「経営学」（経営術）が従来経営学の根幹にあります。どちらかと言えばアタマ中心の学問ですが、私はこれに、一般教養や道徳観のようなココロの側面を加味した和式「経営学」（経営道）を融合し再構築し、新たに進化系「経営学」として提唱しております。これを「フュージョン経営学」と名付けてもよいのですが、視覚的にイメージしやすいので「あんパン経営学」と命名しました。由来は1543年パンがポ



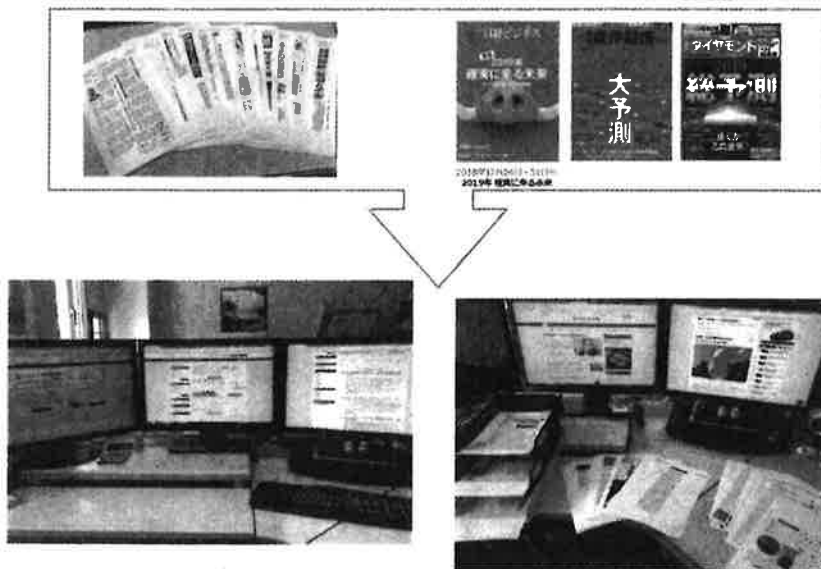
図表2：和洋折衷型の進化系「経営学」⇒『あんパン経営学』

必要であり、経営理論等のアタマを磨く「理性脳」と、経営倫理等のココロを磨く「感性脳」の修得に主眼を置いていきます。あるいは口ゴス（理性）とパトス（感性）を融合したエトス（信頼）的な経営学とも言えます。

（2）『時事ネタ経営学』講座とは

「ゆでがえる(=boiled frog)現象」ということばがあります。これはビジネス環境の変化に適応できず、致命的な状況に陥ることへの警鐘としての比喩で

「時事ネタ経営学」の情報収集・編集工程プロセス



図表3：「時事ネタ経営学」の情報収集・編集工程

ルトガルから日本に伝えられたのに、その後の鎖国やキリシタン弾圧等によって長い間、姿を消してしまい、明治に入ってから「木村屋総本店」がパンのなかにあんこを入れた「あんパン」によってパン文化が日本中に広まったとのエピソードがありますので、これに因んで、洋の経営術をパンとし、和の経営道をあんことして、和洋折衷型の進化系「経営学」を『あんパン経営学』と名付けたという次第です。

この『あんパン経営学』講座では、経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報・全体の視点から経営学の重要構成要素として主要10科目に絞り、各科目のエッセンスを経営スキル（MBA理論他）と経営マインド（道徳・品格等）の両面から学ぶことが狙いです。すなわち経営トップには2つの頭脳が必要であり、経営理論等のアタマを磨く「理性脳」と、経営倫

理等のココロを磨く「感性脳」の修得に主眼を置いていきます。あるいは口ゴス（理性）とパトス（感性）を融合したエトス（信頼）的な経営学とも言えます。

（2）『時事ネタ経営学』講座とは

「ゆでがえる(=boiled frog)現象」ということばがあります。これはビジネス環境の変化に適応できず、致命的な状況に陥ることへの警鐘としての比喩で

使われます。かつて企業の平均寿命は30年といわれていましたが、昨今では17年と短くなってきたとの報告もあり、それだけ激変する環境への対応が不可欠ということなのです。

例えば、「アマゾンエフェクト」といわれるように、アマゾンの台頭・成長によって書店も含めた実店舗が多大な影響を受けていることです。私は「経営学は生き物」との視点に立って、

外部環境（マクロ＋ミクロ）と内部環境（社内経営資源）への変化を毎月、定点観測として学ぶ「時事ネタ経営学」講座を開講しました。

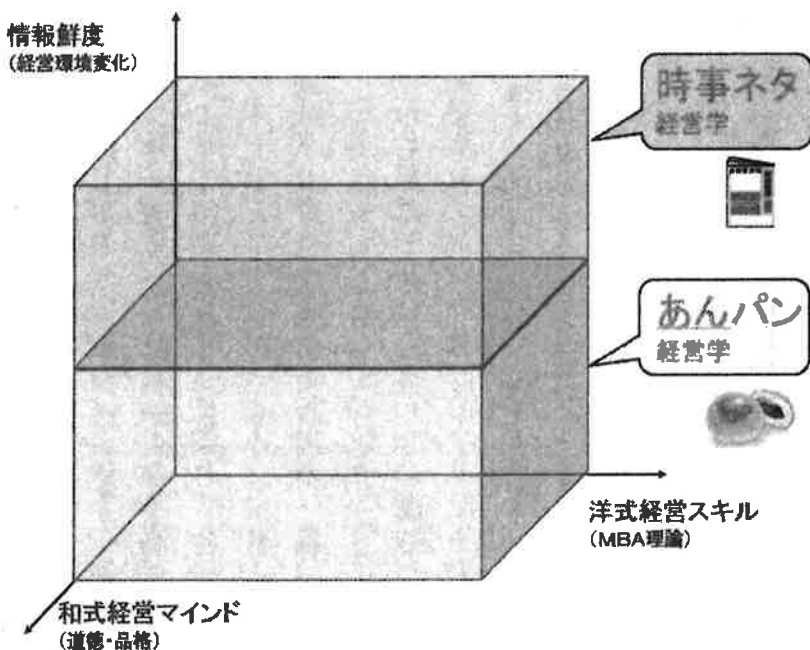
この「時事ネタ経営学」では、最新のビジネスニュース（新聞・雑誌記事、WEB情報、テレビ・ラジオ情報、学会・文献情報等）から、時代の流れを察知することが狙いです。経営の舵取りには3つの目が必要と言われます。すなわち全体を俯瞰する「鳥の目」、現場を観察する「虫の目」、将来を予測する「魚の目」です。通常の仕事場では「虫の目」を磨いています。ここでは特に「鳥の目」と「魚の目」を養うことに主眼を置いています。主な情報源はオンライン商用データベース「ELNET（イーエルネット）」で、約100紙の新聞記事から厳選してその記事が与える将来への影響やビジネスヒントなどを受講生のみなさんに考えてもらっています。

3. 進化系経営学の構成軸と学び直し経営塾「寺子屋カレッジ」の概要

まずこの進化系経営学には3つの構成軸があり、それは「洋式経営スキル

（MBA理論）」、「和式経営マインド（道徳・品格）」、そして「情報鮮度（経営環境変化）」です。

またこの経営塾では、アタマとココロの両面を兼ね備えた、いわば和洋折衷型の「あんパン経営学」講座と、新ビジネス情報から時代の潮流変化の「目」を養う「時事ネタ経営学」講座の2コースから構成されています（参



図表4. 「学び直し経営塾」の座標軸と2つの講座

照・図表4)。これは「経営学」に必要な「目に見えるスキル分野」「目に見えないマインド分野」そして「変化対応の最新情報分野」という3つの領域をカバーしているとも言えます。

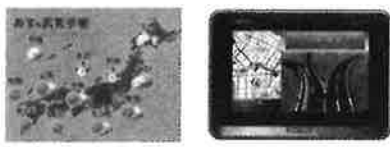
この「時事ネタ経営学」と「あんパン経営学」の両講座についての特徴を、クルマの運転にたとえてみましょう。

前者は、天気予報やカーナビ等の最新情報から現状と将来の環境変化を知ることが主眼です。後者は、効率性を追い求めた運転テクニックだけでなく、周囲への気配りを考慮した運転マナーも身に付けて、プロとしてのドライバーク力を学び、目的地まで安全に快適に運転していくことを主眼としています（参照・図表5）。

さらにこの「時事ネタ経営学」と「あんパン経営学」の関係は、相互に影響し合うような、マトリックス関係にもあります（参照・図表6）

グローバル化の進展、インターネットによる情報通信環境の高度化、

「時事ネタ経営学」講座



天気予報やカーナビ情報
⇒事業の環境変化を知る！

「あんパン経営学」講座



運転テクニックと運転マナー
⇒正しい運転手能力を学ぶ！

目的地に向かって進む！

図表5. 経営をクルマの運転にたとえると……

この社会的ニーズに答えるべくして構想・実現しましたのが、学び直しの経営塾【寺子屋カレッジ】で、これまで約3年間の「実証講義」を開きつつ、見直しカイゼン作業を続けています。

以上、進化系経営塾のご紹介をさせていただきます。

世の中が明るく、人々がハッピーになるために少しでも貢献できればと心より願っています。

最後に、インド独立の父であるマハトマ・ガンジー氏の言葉

をご紹介しましょう。

Live as if you were to die tomorrow.
(明日、死ぬかのように生きなさい。)

Learn as if you were to live forever.
(永遠に生きるかのように学びなさい。)

あんパン経営学(理論)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月
人的資源管理論										
経営戦略論										
マーケティング論										
会計経営分析論										
新事業創出・製品開発										
生産工程物流管理										
経営情報経営計画										
営業サービス経営										
事業性投資採算										

縦系(理論)から学ぶか？
横系(実践)から学ぶか？
両方同時に学ぶか？
2つのアプローチが織り成す「寺子屋カレッジ」

変化を察知し、事前に有効な手立てを打つ！

体系的な基本理論に最新事例を加味し、
具体的活用策を練る！

体験談・エピソード & 名言・格言

図表6. 「時事ネタ経営学」と「あんパン経営学」の関係

またAI(人工知能)の発展等によってこれまでの職業が通用しなくなるこれが報道されています。超高齢化社会での新しいライフスタイルが求められる、学び直しへの個人・社会の取り組みは、喫緊の課題ではないでしょうか。

そして人生100年時代に対応した生涯活躍の基盤づくりとして、経営学分野における再学習あるいはリカレント教育への要請も高まりつつあります。